

平成26年度自己評価中間報告書

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考	中間評価	分析・改善策等
1 基本的な生活習慣の確立を図るために、個々の生徒の実態に即した適切な生徒指導に努める。その際、多様な生徒がいることを相互に認め合い、自己肯定感及び他者との共感力と寛容の態度を育む環境作りに努める。	① 積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	全教職員	【成果指標】 挨拶ができた生徒の割合	挨拶ができた生徒の割合 A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら検討	7月末及び12月に調査 生徒 教員	生徒調査 88.5% 評価 B 教員調査 29.6% 評価 D	生徒と教員に対する判断基準の提示等、調査に見直しが必要である。3年生については、就職を意識して確実に挨拶・入室マナーともに良くなってきている。1年生についても挨拶できるようになってきている。指導方法を工夫して努力していく。
	② 遅刻・欠席防止のために、家庭との連携を密にする。	生徒課 各担任	【成果指標】 年間10回以上遅刻する生徒の数を昨年度の35名より減らす	年間遅刻回数10回以上の生徒数 A 30名未満 B 30名～34名 C 35名～40名 D 41名以上	C・Dなら検討	7月及び2月に集計 生徒課	前年度7月末 9名 今年度7月末 2名	前年度に比較して大きく改善している。10回に達していなくても複数回遅刻を重ねている生徒に対して集中的に指導していくとともに、全体に対する指導を継続していく。
	③ 多様な生徒がいることを相互に認め合う環境作りに取り組む。	相談室 全教職員	【成果指標】 他者との共感力と寛容の態度を育む環境作りに資する教員の校内研修を3回以上行う	校内研修会の回数が A 4回以上 B 3回 C 2回 D 1回以下	C・Dなら検討	2月に調査 相談室		
	④ 環境美化を通じて地域社会に貢献し、場を清める生活習慣を養う。	保健課 各学年	【成果指標】 内灘駅、学校近辺及び海岸周辺の清掃実施回数	学校周辺の清掃実施回数が A 10回以上 B 7回～9回 C 4回～6回 D 4回未満	C・Dなら検討	12月に調査 保健課		
2 基礎学力の定着を図るとともに発展的学習や問題解決学習を取り入れ、多様な生徒に対して向学心及び学習意欲を喚起する。	① 基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	教務課 各教科	【成果指標】 個に応じた指導や教材、教具の工夫によって、授業内容がよく分かったと答える生徒の割合	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合 A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら検討	7月末及び12月に調査 生徒	生徒調査 91.0% 評価 A	ICTを用いた効果的な授業工夫に取り組んだため、授業改善が進んだ。ICT機器の利用については、教員の個人差が大きいので、講習会などを行いスキルアップを進めたい。
	② 年間を通して、全教師が互いの授業を参観し、課題意識を持って授業改善に取り組む。	教務課 各教科	【成果指標】 参観後の評価を集計し、生徒全員が意欲的に授業に参加する授業工夫が行われているか	参観後の評価4以上の割合が A 80%以上 B 60%～79% C 50%～59% D 50%未満	C・Dなら検討	5月、11月、1月に調査 教員	教員調査 85.7% 評価 A	ICTを活用した授業実践及び言語活動を取り入れた授業づくり等に取り組んだ。さらに生徒の学習意欲を喚起するために、互いの実践方法を共有して、学校全体としてレベルアップに繋げたい。
	③ 課題・宿題等について工夫するとともに、提出を徹底させる。	教務課 生徒課 各学年	【成果指標】 課題・宿題等を期日までに提出する生徒の割合	提出状況が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dの場合は、指導法を検討	7月末及び12月に調査 生徒 教員	生徒調査 88.0% 評価 B 教員調査 57.7% 評価 D	・課題の内容・質を生徒の実態を踏まえ教科ごとに再検討する。 ・家庭学習に繋がるように各教科で課題を工夫する。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考	中間評価	分析・改善策等
3 早期に進路意識の高揚を図るため、最新・最適な進路情報の提供に努め、進路実現のための支援の充実を図る。	① 3年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に応じた支援・指導を行う。	進路課 各学年	【成果指標】 自分の進路に関心を持つようになり、将来を前向きに考えられるようになった生徒の割合	進路意識が向上した生徒が A 80%以上 B 60%～79% C 40%～59% D 40%未満	C・Dなら検討	7月末及び12月に集計 生徒	生徒調査 85.0% 評価 A	・指導内容を精選した。 ・重要な点に集中して指導した。 ・1年生が例年以上に進路意識が高い。 これらのことがA評価につながった。
	② ハローワークや地域の企業等と連携して、就業の支援・指導を行う。	進路課 各学年	【成果指標】 就職決定率	就職希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満	C・Dなら検討	2月に調査 進路課		
4 保護者・地域社会との連携を深め、異年齢間のコミュニケーション能力の向上を図りながら課外活動・地域関連行事への参画やボランティア活動等を通じ、地域を愛し、地域に貢献する態度を養う。	① 学校への関心・理解を深めるため、PTA総会や学校公開週間、文化祭等の参加者を増加させる。	総務課 教務課	【成果指標】 来校者の延べ人数及びPTA総会の来校者数	来校者の延べ数が A 400名以上 B 350名～399名 C 300名～349名 D 300名未満 PTA総会の来校者数が A 50名以上 B 40名～49名 C 30名～39名 D 30名未満	C・Dなら検討	12月に調査 総務課		
	② 地域活動へ積極的に参加するとともに、地域と連携した課外活動やボランティア活動を企画・実践する。	生徒会係 各部顧問 総務課	【努力指標】 地域と連携した活動の回数及び参加した生徒の延べ人数	地域と連携した活動の回数が A 40回以上 B 35回～39回 C 30回～34回 D 30回未満 参加生徒の延べ人数が A 2000名以上 B 1500名～1999名 C 1000名～1499名 D 1000名未満	C・Dなら検討	2月に調査 生徒会係 総務課 進路課		
	③ 地元中学校との交流を企画し、体験入学や学校公開等を通して本校をPRする。	教務課 総務課	【成果指標】 体験入学や学校公開等に参加する中学生の延べ数 地域の中学校との交流企画の回数	中学生の来校者数が A 70名以上 B 50名～69名 C 30名～49名 D 30名未満 地域の中学校との交流の回数が A 7回以上 B 5回～6回 C 3回～4回 D 3回未満	C・Dなら検討	12月に集計 教務課 総務課		